

評価基準

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

1. 教育理念・目標

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
瀬古	・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校ホームページ、パンフレット・学生募集要項にて公表。 ・新入生にはオリエンテーションやホームルーム等で、保護者には学生を通して周知。 ・在校生や教職員には学生生活の手引きを岩崎学園ポータルサイト(iポータル)から配信し、周知。	・継続
	・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・カリキュラム、シラバスを作成し、学生に提示。 ・カリキュラムは臨床実習施設にも配布。 ・シラバスは岩崎学園のLearning Management System(学習支援システム;以下、スタログ(LMS))で時間割と共に配信し、閲覧が可能。 ・教育目的・目標ならびにアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて、学生生活の手引き・学生募集要項で公開している。	・アセスメント・ポリシー(学習成果の評価方針)を策定する。

2. 学校運営

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
渡邊	・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に開催されているか。	4	・理事会、経営管理委員会、所属長会議等の各種学園横断会議は適宜実施されている。 ・本校では教務部運営会議・教務部会議・各学科会議・各業務会議・卒業判定会議・進級(成績)判定会議・学生募集会議、朝礼を開催している。	・継続
	・事業計画が定められているか。	4	・業務毎に1年間の業務計画を定め、実行した。	・学生の“今”と“未来”に向き合い、若者と社会ニーズに対するアンテナと感度を高く持ちながら、教職員一丸となって価値ある教育サービスの創造、発信を推進する。
	・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・適切な予算計画が策定され、予算の範囲内で運営している。	・予算は、成果指標を定め達成状況や効果を検証する。
	・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。	・学園で新設・拡充された働き方支援制度を有効活用し、職員が仕事と家庭の両立を目指し、安心してキャリアを築ける職場環境を整備する。
	・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・学校基本調査に合わせ年に1回更新した。	・継続
	・業務分掌は適切か。	4	・経営管理部門、教務部門ともに期初に業務分掌を決め、業務を遂行している。 ・学生の多様化に伴い、その対応に関する担任業務が増加している。	・継続
	・人事考課は制度化されているか。	4	・人事考課を冬期賞与時、年度末に実施し、学園本部に提出した。職員の自律的なキャリア形成支援および適材適所の人員配置を目的として、年末に上司と部下によるキャリア面談を実施した。 ・学園全体の等級・職位、期待役割が明確となり、基準に基づいた人事考課が実施されている。	・人事考課は夏期賞与の支給時期に実施を予定。 ・各部門・学科の管理職は、成果創出に向けて教職員の人材育成およびリスキリングを推進する。
	・出勤が適切に管理されているか。	4	・勤怠管理システム「KING OF TIME」により適切に管理した。さらに、上司・所属長による勤怠管理を徹底した。	・職員及びその上長は職員の多様な働き方、ワークライフバランスの実現に向け、R7年度に新設された各種働き方支援制度を有効活用する。
	・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載し、管理している。	・継続
	・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・健康診断は2024年4月2日に実施した。 ・学園全体で定期的に衛生委員会が開催され、職員の健康確保に向けた調査審議を実施した。	・12月に職員を対象としたストレスチェックを実施予定
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	3	・Slackやグループウェア等の有効活用により、オープンな情報共有と業務の効率化を実施した。また、学生募集、教務、学籍管理等においてデータの可視化・分析も実施している。	・全職員が生成AIを積極的に利用し業務の効率化を図る。 ・生成AI、画像・動画編集ソフト等、新しい技術を積極的に取り入れ、業務成果に繋げる点は今後の課題である。	

3. 教育活動

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
シラバ	・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	4	・岩崎学園共通LMS(スタログ)にて、シラバスを配信している。また、iポータルやGoogleworkSpaceを活用し、ホームルーム情報や総合演習のフィードバック、一部学内実習などを行っている。 ・配信時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。 ・シラバスは奨学金新制度に適應するよう変更し、また岩崎学園共通LMS(スタログ)での配信に合わせ、一部改良したものを導入した。	・岩崎学園共通LMS(スタログ)として、シラバス公開を継続する。
	・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PT137・OT135単位(指定規則101単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。 ・2020年度新入生から、新指定規則に對するカリキュラムを実施している。2024年度入学性より、PT学科で新設の科目、OT学科でカリキュラム時間・科目名の変更など部分改定の届け出を提出した。	・新カリキュラム6年目で、各学年のカリキュラム時間数や科目名の調整を行い、学生の学習効果やカリキュラム・ポリシーとの整合性、学生募集に向けた効果を確認する。
	・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学生には、入学時オリエンテーションにて、対面で説明を行った。 ・在校生には岩崎学園共通LMS(スタログ)で周知した。	・継続

水島	ス・カリキュラム	・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集イベントで実施している体験授業や高校での出張授業等から高校生の現状を把握している。 ・入学試験時の個別面接において、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員2名が県立高校2校(横浜南陵・金沢総合)にて評議委員を務め実情を確認した。 ・2025年度入学予定者に入学前教育プログラムを実施し、受講状況と課題提出状況を把握した。 	・今年度より教職員3名が県立高校3校(横浜南陵・金沢総合・金井高校)の評議委員となる。高校生や高校の実情を確認する。
		・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校関係者評価委員会」および「教育課程編成委員会」にて、情報を収集した。 ・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。 ・臨床実習施設と連絡を取る際に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。 	・今年度も同様に連携していく。 ・臨床実習施設や卒業生を対象にWebアンケートを行い、結果について分析する。
		・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しが行えたか。	4	・5年ごとに実施される指定規則改定に向け、新カリキュラムにて運営している学年(2020年度1年生)から情報収集を行っている。「学生募集」の観点から、一部カリキュラムの変更・追加などを行った。	・指定規則改定を鑑みながら、引き続き社会のニーズや学生の質にあわせた新しいカリキュラムの内容について検討する。
		・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・岩崎学園共通LMS(スタログ)でのシラバスに記載・学生へ周知している。	・継続
杉山	教育力向上	・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。	・引き続き同様の方針で実施する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・新入教員は先輩教員の授業を見学し、自身の授業を組み立てる際の参考にした。 ・後期授業アンケートはスタログ(LMS)を使用し、中間を11/25~12/6、終了後2/10~2/21に実施した。回収率は中間93.2%、終了後81.9%であった。集計結果は、教員がすべての教科を確認できるため、全体の傾向を把握することができる。そのうえで、中間結果を踏まえて非常勤講師を含め、担当教員から学生へフィードバックが行われた。 	・授業アンケートは、半期ごとに2回実施予定であり、非常勤講師を含め、担当教員が自身で結果を確認し、学生へのフィードバックを行う。終了後のアンケート回答率を上げるため、担任からの促しを増やす。前後期ともに初回アンケート後に授業内で学生にフィードバックを実施する。
		・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の研修会として、12/2に進研アド担当者による「基礎力リサーチ2回目の報告会」を実施し、学生の個別対応の参考にした。3/17に学生指導方法研修(講師:心理学講師 高藤先生)を実施し、メンタルサポートについて理解を深めた。 ・外部講習会については、対面開催を含め参加を促した。 	・前期に実施する基礎力リサーチ1回目の報告会は、できるだけ早期に開催し、後期の学生指導に生かす。 ・研修会・学会については、引き続き、参加や発表を促す。
		・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・3/17に非常勤講師ミーティングを実施。非常勤講師と学生に関する情報交換を行った。特に1年生については、学生状況の把握に努めた。 ・非常勤講師の資料印刷や授業準備等を教員が行っており、コミュニケーションをとる機会が増加した。 	・クラス担任は、継続して非常勤講師と学生に関する情報交換を行う。特に新入生について、学生状況の把握に努める。 ・授業準備等をサポートする機会を利用し、一層の情報交換・共有に努める。
・新入教職員教育を含め、スムーズな世代交代を促す教育体制を構築しているか。	4	・新担任や新入教員は学年のサポート業務を担いながら、メンター教員から指導を受けた。	・1年の流れを通して全体業務と担任業務を把握できるよう、引き続き学年のサポート業務を担い、メンター教員からの指導を継続する。		
森岡	臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に次年度の実習受け入れ人数確認文書の発送した。その際に、実習契約書を同封した。 ・新規施設確保は継続する。 ・インボイス制度への書類の回収率改善策を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の実習依頼を4月下旬に発送予定。 ・実習施設の申請書などの書類のデジタル管理を進めている。また契約書(紙面)の回収・管理を行う。 ・実習費用のインボイス制度への対応として、今年度より請求書対応を主として回収率の改善を図る。 ・引き続き新規施設の確保を図る
		・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	4	・新規施設登録について、PT学科次年度6月始まりが4施設、8月始まりが6施設、9月始まりが2施設、OT学科次年度6月始まりが4施設、8月始まりが4施設の申請を行った。	次年度4月始まりの新規実習施設の申請書類提出を進める。
		・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度4年次臨床実習指導者会議は、2025年3月7日(金)オンラインにて滞りなく実施された。参加率は理学療法学科73.2%(82/112施設)、作業療法学科85.7%(60/70施設)。 ・会議では、理学療法学科では2対1指導に関するグループワーク、作業療法学科では領域毎に外部講師によるMTDLPの講義を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度3年次臨床実習指導者会議は、2025年6月21日(土)にオンラインにて実施予定。 ・5月末には実習書類を発送予定。
水島	情報公開	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・受験希望者、保護者には、授業を公開している。 ・各種ポリシー、カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開している。 ・岩崎学園7校共通の授業アンケートを実施し、学園内で結果を公開しているが、外部公開には至っていない。 	・継続

4. 教育成果

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
杉山	資格	4	<ul style="list-style-type: none"> ・新4年生PT学科学生のうち所定の外部実習を終了した学生については、中級パラスポーツ指導員資格が認定された。その他のPT学科学生とOT学科学生は初級パラスポーツ指導員資格が認定された。 ・障がい者スポーツ指導員(P.T学科:中級、O.T学科:初級)認定校の申請に基づきカリキュラムを進めた。 ・第18回神奈川県障害者スポーツ大会のサポートスタッフとして学生10名が参加した。 ・PT学科の一部学生は、中級申請に必要な外部実習80時間取得に向け各種ボランティアに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中級パラスポーツ指導員の資格取得(P.T学科の一部学生)に向け、地域高齢者対象の体力測定会を前期に計画(4/27、7/5に予定)している。 ・ワールドトライアスロン横浜大会、インクルーシブ水泳大会等に有志PT学科学生がボランティアで参加し、中級パラスポーツ指導員資格取得を目指す。 ・各種イベントを案内し、学生の主体的な参加を支援する。
	卒業研究	4	<ul style="list-style-type: none"> ・両学科とも教員の指導を受け、卒業研究発表に向けた取り組みを進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員指導の下、学生が卒業研究を進める。
武田	国家試験	4	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生に対して個別担当による面談を実施。進捗が思わしくない学生については学科で共有し対応を検討した。 ・過去10年分の国家試験分析結果を反映させた補講(リテラシー)を実施した。 ・自宅で学習が捗らないと思われる学生について、登校できるよう工夫、支援を行った。 ・国家試験直前まで小グループ・個別に重点項目の補講を継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習1期空きの学生を対象に基礎分野特別講義を行う。 ・宅ドリル便を利用して、解剖・生理・運動学を中心とした小テストの実施、正答率の確認を行いショートステップで進捗を確認できるように検討する。
	卒業試験	4	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の国家試験の出題範囲や難易度を分析したうえで、試験の作成依頼を行った。 ・正答率の低い問題を基準点から除外するなど、適正かつ公正に卒業判定を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業試験と国家試験結果の関連などから、卒業試験作成既定の振り返り・見直しを行う。 ・卒業試験の作成時には、複数の教員が問題の精査を行う。
	卒業試験・実力試験	4	<ul style="list-style-type: none"> ・試験後に解答・分野別正答率を提示し、見直しを促した。 ・面談時に分野別正答率などから、振り返りと対策を検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実力試験・業者模試において、学生が勉強した範囲の正答率が高くなっているか確認、勉強の効果判定を行う。
臨床実習		4	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次臨床実習(1W);専門学校体育大会でのケガのため、未実施であった1名は年度末に実施し0項目なし。対象の88名全員単位修得。 ・2年次臨床実習(地域福祉分野2W);行動・指導者との関わりの項目に0があった1名は、年度末に追加実習実施し、0項目なし。対象78名全員単位修得。 ・3年次臨床実習(4W);対象の75名全員が0項目なし。 ・4年次臨床実習(8週間2施設);臨床実習Ⅴは82名ルーブリックに0項目なし。臨床実習Ⅳで0項目があった3名は10月21日から追加実習を実施し、0項目なし。4名はポートフォリオの不備により学内実習を実施した。臨床実習後OSCEを10月12日・11月22日(追加実習者対象)に実施し対象の82名全員単位認定。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次見学実習(1日×6分野);44名。夏期に保育園実習終了。年度末に見学実習を5領域(身体・精神・介護・就労・発達領域)実施。 ・2年次基礎実習(介護老人保健施設2W);35名実施、33名合格(継続実習1名、D評価3名は学内実習にて1名合格 2名は単位未習得にて休学中。) ・3年次臨床実習;臨床実習Ⅰ・Ⅱ(3週間2施設);41名実施、41名合格。(D評価1名は学内実習にて合格) ・4年時臨床実習;臨床実習Ⅲ・Ⅳ(8週間2施設) Ⅰ期(4/8~6/1)・実習後OSCE(6/3);22/39名実施。3名保留。(1名継続実習で合格、2名追加実習で合格) Ⅱ期(6/10~8/3)・実習後OSCE(8/6);32/39名実施、全員合格 Ⅲ期(8/13~10/5)・実習後OSCE(10/7);24/39名実施名、2名保留。(1名追加実習で合格、1名追加実習で不合格) ・生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校の更新時期となっているため手続き申請を行った。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会の作成した「臨床実習の手引 第6版」に準じて本校が作成した「臨床実習の手引き」を見直し、特にデイリーノートの改定やポートフォリオの作成を具体化し、2025年度から使用する。 ・上記にともない1・2年次臨床実習説明動画を更新し、丁寧に説明を行う。 ・4年次臨床実習後単位認定の一部である臨床実習後OSCEを継続し振り返りを行う。 ・3・4年次臨床実習における実習指導者と実習生数について、協会推奨の1:2の導入を加速させる。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進強化校として、臨床実習におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)化も行き、臨床実習の見える化、臨床実習施設との連携に取り組んでいきたい。
		4	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月12日(土)評価者教員8名、患者様役外部PT8名で総合臨床実習後OSCEを実施した。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MTDLPレジュメによる症例報告・作業療法介入OSCEを各期の終了後に実施した。各回、外部OT4名に参加してもらった。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度総合臨床実習後OSCE後に関して、振り返りを行う。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MTDLPレジュメによる症例報告会及びOSCE(作業療法介入の一部実施)を各期終了後、実施予定。実施後の振り返りアンケート調査を学生及び外部OTに今年度も実施予定である。
田中・水	臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。	4		

島	留年・退学者防止	3	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生(27期生)の後期再試数の平均は2.0であり、前期の2.2に対しては微減、昨年度(26期生)の1.3に対して増加。 ・2年生(26期生)の後期再試数の平均は1.1であり、前期の0.3に比べ増加しており、昨年度(25期生)0.6に対しても増加。 ・3年生(25期生)の後期再試数の平均は1.1であり、前期の1.2とほぼ同様であるが、昨年度(23期生)0.5に対しては増加。 ・再試不合格者については1年生12名(昨年度13名)でほぼ同じ、2年生1名(昨年度5名)で減少、3年生は1名(昨年度0名)である。1年生は試験期間中に退学の意思表示をした学生が7名おり、再試験を受験せず不合格となっていた。2年生は再試科目数が多い学生が再試を落としていた。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期強化組は1年7名、2年6名を選出し、サポートを行った。 ・後期総合点の偏差値において、1年生(7名平均39.86)では、前期の平均実績が40.86であったのに対し、1名が留年、1名が留年退学となった。2年生(6名平均40.8)では、前期平均が37.33でしたが、1名が留年・休学となった。集団では、2年次においてプラスの効果が見られ、個別では1年次2名、2年次その他の学生は平均偏差値をプラスに転じる効果があった。強化組において、総合点偏差値が35以下の者は、1年生で2名、2年生で1名であった。 	<p>【理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度1年生の退学者について、有意に相関があったのは前期の成績であった。そのため、2025年度1年生に対する早めのサポートを開始する。 ・学生面談情報はGaroonで記録し、共有する。 <p>【作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も強化組対策を継続する。学生間での主体的な学びを促進するため、Gems(内部特待生)やRリーグ(学生生活ポイント制度)と連携しながら継続して実施していく。また、学科会議で随時情報共有するとともに学生面談情報はGaroonで記録し、共有する。
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度は、進級率PT303/328 92.4%(2023年度97.9%)、OT151/164 92.1%(2023年度96.9%)、退学率はPT19/328 5.8%2023年度4.5%)、OT5/164 3.0%(2023年度1.9%)と、目標内に抑えることができなかった。特にPT学科では、年度途中退学や定期試験中・直後の退学意思表示が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不良による退学や留年の可能性がある学生の早期発見、早期フォローを行い、年度数値目標として進級率96%以内、退学率4%以内を目指す。
	卒業生	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校HP・入学案内やX、学校説明会等広報において紹介した。 ・現役理学・作業療法士の卒業生に各種講演やアドバイザー、学内実習などのOSCE場面で模擬患者役や評価者役を依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OTの職域を広げ国内外で活躍している卒業生を把握し、PT・OTを目指す高校生に夢を与える一助とする。

5. 学生支援

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
杉山	社会性	4	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対し、入学時オリエンテーションや初年次教育にて社会人・医療人としての資質の形成を支援した。 ・担任面談や授業等で担任や教科担当からの指導を行った。 ・1・2年生については、基礎力リサーチの結果を分析し、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面談や授業等で担任・教科担当からの指導を行う。 ・病院・地域での実習で、社会性を含めた情意面について、学生個々で明確となった課題への取り組みを担任や強化組担当教員が支援する。 ・「基礎力リサーチ」その他の評価/バッテリーを使用し、その結果分析から、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行い、面談等の指導に生かす。
内山	行事	4	<ul style="list-style-type: none"> ・3/16(日)最後のプレップゼミにおいて9サークル代表が新入生にむけてサークルの説明を実施した。 ・4/1(火)健康診断を実施した。 ・4/6(日)入学式はパシフィック横浜にて、岩崎学園合同で開催され、リハ校は129名の入学生を迎えた。各校サークル代表が登壇し学校生活の楽しさなど説明、式後の会場でクラブサークルの勧誘を行った。これからの楽しい学校生活の説明も丁寧に実施し入学生の不安を解消することができた。昨年度、夏の専門学校体育大会はバスケットボールサークルと野球サークルが参加し、両チームとも県大会優勝し、バスケットボールサークルは全国大会(会場:福岡久留米)に男女ともに出場し、野球サークルも全国大会(会場:岡山)にも出場した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年5月より学園祭実行委員を中心に、10/25(土)、10/26(日)に行われる学園祭の準備を進める予定である。岩崎学園全体の企画に対しても運営に携わり、他校の学生とも交流できるように実施する。
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・行事担当のスタッフがどの行事にあたっても対応できるよう、業務役割を少しずつ移行した。 ・情報共有の為、定期的に会議を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岩崎学園全体でのイベントについては、学内担当が本部の流れや意向を把握し、学生全体が楽しめるようなイベント運営に努める。 ・各行事での新企画など、情報を収集し効率よく準備する。 ・各担当が業務内容を把握し、引継ぎが円滑に行えるよう随時進めていく。 ・新しいサークルを立ち上げたい学生を支援する。
水島	個別指導	4	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面談をオンラインも併用しながら実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてスクールカウンセラー・岩崎職員(警察OB)の利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。 ・週1回の学科会議にて早期発見・早期対応を心掛け、問題発生時には、適宜学生に関する情報交換を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。岩崎学園共通LMS(スタログ)を活用して、成績や出欠状況を管理し、Garoonにて面談の記録を行った。セキュリティ対策をして教員間で情報を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の個別カルテは廃止。緊急連絡先や臨床実習記録はクラス単位で保管し、面談記録はGaroonで管理する。
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、国試担当教員が主に対応にあたった。 ・岩崎学園iポータルに求人検索や就職における履歴書添削(AI活用)のプラットフォームがあり、学生は活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続

瀬古	健康管理・防犯	・学生の健康診断を定期的に行っているか。	4	・年1回実施(2024/4/2に実施)	・年1回実施(2025/4/1に実施済)
		・犯罪・薬物・消費トラブル等の指導を行っているか。	4	・新入生対象に薬物乱用防止教室を実施した(2024/5/14に実施) ・随時、薬物乱用・詐欺・犯罪(闇バイト)・消費者トラブル等への注意喚起やポスター掲示を行った。	・薬物乱用防止講座を新入生対象に5/12(月)16:30~17:20で実施予定。 ・随時、薬物乱用・詐欺・犯罪(闇バイト)・消費者トラブル等への注意喚起やポスター掲示を行い継続的に啓発を促す。
	就職支援	・就職指導支援体制整備 ・就職内定率目標(年内60%・年度内100%)の達成 ・学生の就職希望データベース化 ・既卒者対象求人情報データベース化	3	・学生が就職活動を行いやすいように就職ガイダンスを3回実施、就職の手引きの配布や小論文対策講座(動画)を配信した。 ・就職活動支援(履歴書・小論文添削、面接練習)を国試担当教員が実施。 ・求人情報はiポータルで配信するとともに、教員からSlackを利用し学生に共有。 ・学生は学外(臨床実習中)でもiポータルから求人情報を閲覧可能。また、iポータルから就職活動進捗報告を行っている。就職試験を受験した場合はその内容も登録するため次年度以降の学生に有効な情報となっている。 ・リハビリ職の就職活動が早期化している傾向にある。2024年度の実績は以下の通り。 年内内定率(2024/12/末) ():2023年度内定率 PT:65.0% OT:60.0% 全体:63.4% (PT:60.2% OT:64.1% 全体:61.5%) 年度内内定率(2025/3/31付) ():2023年度内定率 PT:98.7% OT:97.1% 全体:98.2% (PT:97.5% OT:100% 全体:98.3%) ・新4年生に対し、年度内に3月に2回の就職ガイダンス施行。	・学生個人の国家試験対策状況を鑑みながら内定率年内60%、年度内100%を目指す。 ・6/2(月)に4年生に対し、3回目の就職ガイダンスを実施。 ・就職活動の早期化に伴い、例年よりも2か月前倒しし、6/6(金)に合同就職説明会を実施予定。85施設が参加予定。
	災害対策	・災害対策マニュアルを整備し、災害発生時の指導を行っているか。 ・万が一に備え、保険加入しているか。	4	・学生の避難訓練を2024年11月18日と11月25日に分けて実施。教職員向けの防災訓練を2025年3月10日に実施した。 ・学生、教職員とも災害時の連絡手段、安否確認フォームについて、QRコードを学生生活の手引きに掲載、周知。避難訓練時に学生・教職員は入力の練習を実施。 ・通学時、学内外の実習や活動においての賠償責任保険に加入している。	・本校の災害時対応マニュアルを更新し、教職員に周知する。
	経済援助・活動援助	・奨学金等の経済的支援があるか。 ・学費減免、学費納納制度があるか。	4	・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・神奈川県理学療法士及び作業療法士 修学資金の申込方法や施設による奨学金制度を紹介。 ・岩崎学園奨学生制度(給付型奨学金)を設けている。 ・高等教育修学支援新制度(2020年~)対象機関である。 ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。また、岩崎学園Gems(内部特待生)選抜も実施し、学費の減免を図っている。 ・岩崎学園学費分割納入制度を設けている。	・高等教育修学支援新制度対象機関であり、今年度より対象が拡充され多子世帯支援が含まれているため対応する。
	・保護者・保証人等への情報提供は行われているか。	4	・1~3年生の保護者・保証人等へ後期成績、出欠状況等をMyPaにて配信。 ・学校・学園からのお知らせ各種を保護者・保証人等へMyPaを利用し、随時配信した。	・新入生の保護者・保証人等をMyPaに登録し、情報を配信する。 ・2024年度後期の成績、出欠状況が整い次第、MyPaで配信する。	
	・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。	4	・3/2に同窓会を開催。140名程度の卒業生とご家族、教職員が集まり、本校を退職する教員を交え、同窓会を実施した。 ・学園の取り組みとして、2024年度卒業生からLINEに登録してもらい、学園・学校情報を提供するシステムを構築した。	・学園祭時に卒業生の交流会を計画中。 ・2026年3月に同窓会主催の勉強会を開催予定。	
	・クラブ活動を支援しているか。	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・パレーボール・バドミントン・テニス・チアリーディング等の活動に顧問をあて、補助金で支援している。 ・野球サークルが11月末日に全国大会(岡山県)に出場した。費用の一部を補助するとともに、教員が引率した。	・継続	

6. 教育環境

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
武田	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・継続
	・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・各ホームルーム教室があるフロアならびに6階のエレベータホールに学習環境完備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・継続
	校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	・校舎、設備は定期点検し、必要に応じて修理・刷新を実施。	・各ホームルームのモニターの経年劣化ならびにモニター大型化に伴い、50型から75型に変更した。
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生にノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・スマートフォンなどを利用した国家試験対策教材スマコク(国家試験対策eラーニング)を使用 ・解剖生理学デジタル教材としてVisible Body(3D人体解剖学習リソース)を使用 ・スタログ(学習支援システム)及びメディカルオンライン(医学文献の検索・閲覧)を導入し、オンライン学習の円滑な実施環境を整えている。	・国家試験対策教材をスマコクから宅ドリル便に変更した。
武田	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	4	・図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。	・図書室蔵書の検索システムの作成を姉妹校の情報科学専門学校の学生に依頼中。
	・Web利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	4	・メディカルオンラインの利用については、概ね、適正に利用された。ダウンロードに関する注意喚起を継続した。 ・メディカルオンラインのパスワードは年度ごとの更新に変更した。 ・下半期(2024年10月~2025年3月)は425件/月の利用件数であった。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。 ・他の論文検索システムを検討を継続する。

設備・備品	・指定規則に従う機材、実習室などは整備されているか。	4	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした。各実習室の機器、備品の整備を実施した。	・継続
	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・教務室内、倉庫内を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。	・備品の不足、破損に迅速に対応する。経年劣化した機材を更新していく。

7. 学生募集

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
渡邊	・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	4	・両学科とも定員充足。高校ガイダンスや体験授業で、仕事の魅力・リハビリ職の職域の広がりを伝えたことで、リハビリ職を目指す高校生の裾野を広げる活動を実施した。	・進路検討・入試の早期化に対応し、総合型選抜の入試日の増設、公募型推薦入試の開催日の見直し等を実施。昨年度同様両学科とも定員確保を目指す。
	・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・継続
	・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができているか。	4	・入学情報センターにて対応。 LINE、フリーアクセス0800-800-4508、メール(infoycr@iwasaki.ac.jp) ・希望に応じて個別相談実施。 ・放課後オープンキャンパスや入学に関する個別相談会を拡充した。 ・相談しやすいツールとしてLINEによる個別相談も継続実施している。	・継続
	・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・学校説明会を開催し、学校紹介・各学科紹介・入試説明・学費・奨学金説明、校舎案内・授業見学を実施。 ・個別相談では、受験可能な推薦制度、特待生制度等、個々の事情に合わせた情報提供を行っている。	・高校生や保護者のニーズに合わせたイベントを実施し、学生募集につなげる。
	・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・在校生によるキャンパスライフ紹介も実施し、入学後の様子をイメージしやすいイベント運営を実施している。 ・車いすバスケットチーム神奈川VANGUARDSと合同で車いすバスケット体験会(体験授業)を開催。入学後もスポーツリハビリが学べる学校であることを伝えることできた。	・継続
	・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。	・継続
・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・プレップゼミ(入学前準備講座)は従来の専門教育から「仲間作り」や、「医療職に求められるコミュニケーション」の内容に変更。安心して学校生活の第一歩を踏み出せる取り組みとなった。	・継続	

8. 社会貢献

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
水島	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・職能団体の技能研修会等開催のため、感染対策を徹底して開催。 ・高校等からの依頼による出張授業に参加した。	・継続
	・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・安全確保と感染対策を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出している。 ・臨床実習指導者講習会やその他研修会などにも貸し出している。	・継続
	・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	以下に学生が参加した各種ボランティア活動を示す。 ・毎月 ラポール上大岡での「エンジョイスports遊び」;のべ25名 ・9/29/49/59/6 パラスports実技講義のお手伝い;のべ15名 ・9/14 全国障害者スポーツ大会 選手団体力測定会;6名 ・9/22横浜ラポール「ラポールの祭典」;10名 ・9/29 八景島トライアスロン;22名 ・10/3横浜市地域共生ハッカソンキックオフ会;2名 ・10/5・6 相模川ビレッジ若あゆで行われたあめんぼボランティア;24名 ・10/5世田谷スポーツフェスティバル(車椅子バスケ);4名 ・10/19秦野パラスportsフェスティバル;4名 ・10/24~29全国障害者スポーツ大会(佐賀)「のボランティア」;8名 ・10/24~29全国障害者スポーツ大会;8名 ・10/27横浜マラソンのボランティア;28名 ・11/9・10日本パラ選手権水泳競技会@滋賀のボランティア;2名 ・11/9・10横浜アーバンスportsフェスのボランティア;8名 ・11/17ひらつかビーチパーク3x3 車椅子バスケ大会ボランティア;10名 ・11/10ナーシングピア横浜「ハートフェスタ」ボランティア;10名 ・11/24鈴木孝幸杯インクルーシブ短水路水泳大会;17名 ・12/1第19回湘南国際マラソン;27名 ・黒岩知事と県民との対話の広場;2名 ・2/16神奈川県ポッチャ競技会ボランティア;7名 ・11/3インクルーシブeスポーツイベント;10名 ・2/16 AYAインクルーシブ映画上映会 in 横浜のボランティア;4名 ・2/11(火・祝)のすてっぶなのボランティア;7名 ・3/15・11/16 AYAインクルーシブボランティア;11名 ・3/8【フレームフットボール】多摩センター J-SOCIETY FOOTBALL PARK ;2名 ・3/25 ドローンファイト大会のボランティア;4名	・各種イベントを案内し、学生の主体的な参加を支援する。また、参加学生にはRリーグのポイント付与を行う。
・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・つなぐカフェ;4回実施。のべ参加者132名、学生56名 ・体力測定会;2回実施。のべ参加者22名、学生44名	・つなぐカフェを2025年度前期は4/12、5/10、6/14、7/12土曜日に開催予定。 ・体力測定会を2025年度前期は4/26、7/5の土曜日に開催予定。	

9. 法令等の遵守

担当	評価項目	評価	2024(令和6年)年度後期達成状況	2025(令和7年)年度前期に取り組むべき課題等
瀬古	・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・臨床実習施設について変更や新規施設について総務を通し、県へ申請した。	・新任教員2名、新非常勤講師1名、専任教員講習会修了者1名の県への申請書類一式を総務に提出。 ・カリキュラムの一部変更を検討しており、書類が整い次第、総務に提出予定。 ・臨床実習施設について変更や新規施設について県への申請を継続する。
	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化、「臨床実習の手引き」「学生募集要項」に記載している。 ・デジタルの個人資料はパスワードをかけ管理している。	・継続
	・自己点検・自己評価を定期的に行い、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、卒業生アンケート、教職員の自己評価等)となっている。2012年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施。	・理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの一部改正により自己点検・自己評価を前期中に実施する。
	・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。	4	・リハビリテーション教育評価機構の認定ならびにWFOT評価については、次回受審が2026年である。	・2026年度に次期受審を迎える。今年度は準備期間とし、情報収集を実施。
	・自己評価結果を公開しているか。	4	・「自己評価」ならびに「自己点検、自己評価」の結果はホームページで公開している。	・継続